

令和 7 年度 仙台総合ペット専門学校

【自己評価報告書】

令和 8 年 5 月 1 日



よりそうチカラを、キミに。

仙台総合ペット専門学校

《目 次》

項 目	ページ
1. 学校の教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 本年度の重点目標と取組・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 令和7年度 項目別自己評価	
(1) . 教育理念・目標・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(2) . 学校運営・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(3) . 教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(4) . 学修成果・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(5) . 学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(6) . 教育環境・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(7) . 学生の受け入れ募集・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(8) . 財務・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(9) . 法令等の遵守・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(10) . 社会貢献・地域貢献・・・・・・・・・・・・・・・・	10
(11) . 国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・	10

1. 教育目標

動物と人間のより良い共生社会の実現を目指し、動物に携わる職業の選択を可能とする専門知識や技術の修得を第一目標とします。また、少子高齢化、経済のグローバル化、社会や技術の進化の加速化という世界に共通する大きな社会変動の中でも、個人がその能力を発揮し、輝きを失うことなく意欲的に生きて行けるエンプロイアビリティ、ポータブルスキルとしての人間力（基礎学力・社会人基礎力・人間性）を身に付けることを目標とします。

2. 本年度の重点目標と取組

職業実践専門課程設置校として各委員会をとおり教育課程の充実を図るとともに即戦力となる職業人の育成に繋げるため企業と連携し授業の充実を図る。また、学生本人が納得できる就職指導を実践し、自ら考え行動できる就職への導き、さらにはペット業界で末永く活躍できる人材の育成と各科就職率100%を目指す。

3. 令和7年度 項目別自己評価

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	4	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 取組と課題

学園理念でもある「CAREER COLLEGE」の「広く深い専門知識を学ぶ「専門力＝キャリア」の修得」と「しなやかな感性、豊かな人間性を学ぶ「人間力＝カレッジ」の修得」を目標とし、継続して学校が定める教育目標・育成人材像に加え、専門的な知識・技術・技能をより高めるための重点目標を各科で設定し、それらを達成するための計画的な指導に取組んだ。また、コミュニケーション能力やビジネスマナーなど社会人としての教養を養い、即戦力となる人材育成にも取り組んでいる。日々変化し続ける社会のニーズに適った人材を輩出するためにも業界の将来を見据えた教育活動の展開をしていくことが今後も課題であり、そのためにも既存の企業・業界団体との連携強化はもちろん、新たな企業との連携を行う必要がある。学校生活・就職活動のサポートとして、学校側からの情報提供にとどまらず学校と保護者の連携を強化していくことを課題としている。

② 今後の改善方策

教育の質保証・向上に向けた取り組みの推進を図るためにシラバス改善等による学修成果の可視化や外部の識見を有する者による評価受審に向けた学内体制の構築を行っていく。時代の変化に取り残されないように企業連携を深め、セミナーや研修など学生の知識・技術向上のための教育活動を進めるだけでなく教員側の研修の充実も図っていききたい。また、保護者との連携もより充実を図り、学校の方針、ペット業界への就職に関する状況の説明など、学生が直面する問題への理解を深める必要がある。企業・保護者だけでなく広く学校について知ってもらうためにもオープンキャンパスだけではなく SNS など学校で教育について積極的に周知していく必要がある。

③ 特記事項

各科が目標としている学習目標、目指す人材育成像についてはオープンキャンパスのなかでレジュメを用いて説明をおこなっている。また、教室・実習室に掲示をすることで日常的に目標の確認ができるようにしている。

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に対する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 取組と課題

運営組織や意志決定機能は学園規程において明確にされ有効に機能しており、それぞれの職域のなかで業務に臨めるよう整備されているが、学内の情報システムの整備は十分といえない状態が続いている。SNS(Instagram、X、)やブログの定期的な更新によって、学生および保護者に向け、日常の学校生活や学生の様子を発信している。また、入学希望者およびその保護者に対し進学判断の一助となる情報提供を目的に行っている側面も有している。今後も継続的な情報発信を行う必要があるが、その際には情報リテラシーに十分配慮し、適切な情報管理のもとで実施することが重要である。

② 今後の改善方策

学園内の情報システムは令和8年度に新システムの導入に伴い、大幅な変更を予定している。これにより、業務の効率化および安全性の向上を図る予定である。
また、各規則は時代の変化に対応して見直していく必要があるため、毎年の見直しを実施する。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	3	②	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修が行われているか	4	3	②	1

① 取組と課題

各科のニーズに合わせペットショップや動物病院での現場実習を行っており、将来のイメージを持たせる上で良い効果を与えている。また、ただ実習を行わせるだけでなく学生の実習時の評価もしていただき、学生へフィードバックできる体制を整えている。社会の変化のスピードが速くなり、学生だけでなく教員側のスキルアップも求められている為、さらなる研修機会の拡充も今後の課題となる。また、学生を指導していくうえで教員の確保も継続的な課題になっているが、動物業界で継続的に働き、知識と経験を持っている人材が少なく、卒業生が学校に来た際など、良い人材がいらないかさらにアプローチをしていく必要がある。

② 今後の改善方策

専門的な知識向上だけでなく、様々な特性をもった学生も多く入学してきているため、より広い視野をもてるような研修機会も拡充していき、教員の質の向上を図る。教員の確保についても個人だけでなく企業とも話し合い、企業連携をより深めていく必要がある。

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 取組と課題

学校全体の就職・資格（愛玩2級）・徐退率について以下の表にまとめた。

	令和7年度	令和6年度	増減
就職決定率	95.2%	95%	+0.2%
動物業界就職率	89.2%	90.4%	-1.2%
除退学率	3.5%	5%	-1.5%
資格取得率（愛玩2級）	97.4%	82.9%	+14.5%

就職決定率・業界就職決定率に大きな変化はなかった。しかし、全科で取得目標資格にしている2級愛玩動物飼養管理士の資格取得率は大幅に上昇した。除退学率についても学園の目標である「5%以内」ではあるが、メンタル面での不調を抱える学生が増えており、より一層の支援体制の構築が急務である。

② 今後の改善方策

1年次から合同企業説明会の開催などを行い、早期から学生の就職活動を促し、より多くのインターンシップを経験し自分にあった就職先を探してもらう事により、就職のミスマッチを減らしていき卒業後の活躍も継続的に追えるような体制を築いていく。資格取得については資格の重要性を学生に理解してもらい、引き続きのサポート行っていく。メンタル不調の学生へは学内カウンセラーや保護者との連携をより強化し、サポート行っていく。

③ 特記事項

定期的にOB・OG訪問を行い、求人開拓や現場からの声を直接聞き、教育活動に活かしている。また、就職活動時の注意事項や過去のトラブルなど校内でまとめ、全教員が確認できるように体制を整えている。

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 取組と課題

国や県の修学支援制度や学園独自の修学支援など金銭面でのサポート体制を整えており広く周知されてきている。そのため、入学の際に利用する学生も増えてきている。また、コミュニケーション能力の低い学生や家庭環境が複雑な学生が増えてきており、多様化する学生への対応が求められていると感じる。卒業生から就職先の問合せも多くあるが、現状は各科担任が対応している状況になっており、十分なサポートが出来ていない。動物業界も人員不足が続いており、即戦力として働ける卒業生の需要は高いため、卒業生へのサポート体制の構築が必要になる。

② 今後の改善方策

在校生だけでなく卒業生へのサポートの1つとして学校のSNSを利用した既卒求人の紹介などを検討している。また、保護者との連携強化として就職活動時の注意点や実績などを報告する保護者説明会の実施や授業参観の開催なども検討しており、連携強化を図っていきたい。

③ 特記事項

1年生対象の合同企業説明会を校内で開催している。また、教育訓練給付金制度の対象校であり社会人ニーズを踏まえた教育環境を整備している。

（６）教育環境

評 価 項 目	適切・・・４、ほぼ適切・・・３、 やや不適切・・・２、不適切・・・１			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	４	③	２	１
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	４	③	２	１
防災に対する体制は整備されているか	４	３	②	１

① 取組と課題

学生数の増加に伴い教室不足の課題が出てきた。そのため各教室の回転率を上げ、無駄のないように各科協力している。また、ドッグトレーニング施設を新設したため、今まで行えなかった授業もできるようになった。毎年、避難訓練は行っているが、防災用品の準備に関しては十分とはいえず、人だけでなく動物達の防災用品の準備も行う必要がある。

② 今後の改善方策

業界のニーズに答え続けることができるように常に実習室の見直しは行っていきたい。防災に関しても普段からの備えをしっかりと整えていきたい。

（７）学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切・・・４、ほぼ適切・・・３、 やや不適切・・・２、不適切・・・１			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	３	２	１
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	３	２	１
学納金は妥当なものとなっているか	④	３	２	１

① 取組と課題

引き続きオープンキャンパスやガイダンス、学校見学などで学校の魅力・特色をアピールしていく。また、普段のオープンキャンパスだけでなくショートオープンキャンパスなどを多く行い、日程の調整が難しい方にも参加しやすい環境を整えた。また、競合他校との差別化だけを意識するのではなく、取り入れるべきところは柔軟に取り入れることが出来るような体制を築く必要がある。

② 今後の改善方策

大幅な入学生減少はないが引き続き少子化も深刻な問題なため、SNS 等での情報発信を積極的に行っていく。学納金に関しては物価高による学納金の値上げは予想されるが、同時に学園独自の支援体制について強化を検討している。

(8) 財務

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適当に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 取組と課題

財務に関しては経理規程にもとづいて会計監査をはじめ、適切に運用されている。経理業務を正確かつ迅速に処理し、財務及び経営状況を明らかにして経営の能率的な運営と充実を図っている。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

財務情報公開をホームページで行っている。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 取組と課題

法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がされている。

② 今後の改善方策

年度当初に職業実践専門課程に関する年間スケジュールを立て、自己評価の早期着手及び改善に向けた取組を実施していく。

③ 特記事項

自己評価結果公開をホームページで行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 取組と課題

各企業・メーカーが開催する勉強会の場として、本学では教室をはじめとする施設・設備を広く開放している。母校が会場となることから、卒業生も積極的にセミナーへ参加しており、当日は多様な情報交換が行われる有意義な機会となっている。

また、毎年、開催されているペットフェスティバルへの学生参加や幼稚園・保育園での犬の触り方講座、地域猫活動、様々なドッグイベントのボランティア参加など、地域貢献活動が年々増えてきている。ボランティア証明書の発行なども各企業、積極的に協力をしていただけるようになり、進んで参加する学生も増加傾向にある。今後も継続して学生により良い経験を積んでもらえるような環境を整えていきたい。

② 今後の改善方策

引き続き動物イベントの参加やボランティアなどは学生へ促していく。また、地域に対する公開講座・教育訓練では教育訓練給付制度の強化の検討をする必要がある。

(11) 国際交流（必要に応じて）

特になし